

## 保護者の皆様へ

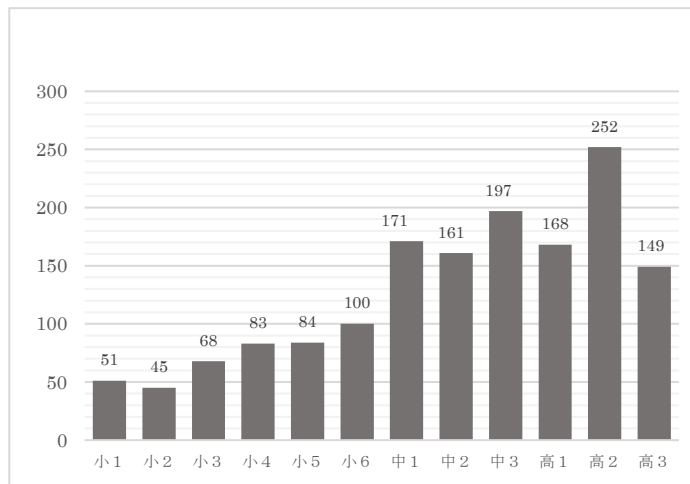
### 1 「早寝早起き朝ごはん」で規則正しい生活を！

家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、家庭教育はすべての教育の出発点です。毎日決まった時間に就寝し、適切な睡眠時間をとることが大切です。朝食をきちんと食べている児童生徒は、そうでない児童生徒に比べ、学力調査の結果が高く、また、ルールを守って行動できる傾向にあるという調査結果も出ています。基本的な生活習慣の定着は、学力の向上と相関があるといわれています。毎日集中して授業に臨み、学習効果を上げるためにも、「早寝早起き朝ごはん」への引き続きの御協力をお願いします。

### 2 質の高い家庭学習を！

学習時間についてのアンケート結果です。小学生の、低学年と中学年が上昇傾向で、高学年は横ばいでした。毎日学習する児童の割合がほぼ100%で。課題や自主学習にしっかり取り組んでいるようです。中学生では、全体の平均が176分で、昨年度に比べるとほとんど変化なしです。高校生は、全学年平均189分で、昨年度に比べ減少しています。テスト期間前の学習時間だけでなく、継続した学習につながられている児童生徒も増えてきていますが、学習内容の質の向上が求められます。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、これまでとは異なる学校生活を過ごしていますが、学習することへの意識は減少していないと思います。今後は導入した、タブレット端末も活用していきたいと思います。受け身の家庭学習にならないようにしていくことと、主体的な学習を継続させること。ぜひ質の高い家庭学習を！

学習時間の1日の平均（分）



### 3 メディア利用のルール確認を！

携帯やスマートフォンなどの端末機器は、私たちの生活を便利してくれますが、それに依存しすぎると、様々な問題を引き起こしてしまいます。全国の中高生の7人に1人が、病的なインターネット依存状態にあるといわれています。（2017厚生労働省研究班調べ）また、メディアとの接触時間が長い子どもほどイライラすることが多くなり、自己肯定感が低くなるという調査結果も出ています。ご家庭の利用時間などのルールの確認のため、奈留小中では、「わが家のメディアルール」を作成しています。また、長崎っ子的ための環境メディア協議会において「ながさき基準」が発表されました。みんなで「ながさき基準」を守ることで、適切な睡眠を得ることができます。また、家族で過ごす時間、自分に向き合う時間、リラックスする時間、集中して学習する時間などのよりよい成長のための時間をつくることができます。「よる9じからは、わたしじかん！」をご家庭でも合言葉にさせていただきますよう、ご協力をお願いします。



#### わが家のメディアルール

メディア（スマホ・携帯電話・ゲーム等）を扱うにあたって、わが家では次のことをルールとします。

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

③ \_\_\_\_\_

④ \_\_\_\_\_

⑤ \_\_\_\_\_

⑥ \_\_\_\_\_

以上のことを守って使います。

（ ）年 児童生員氏名（ ）  
保護者氏名（ ）

ルールを守っているか？ 【4段階評価】よく守られている 4→1 全く守られていない

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生徒 評価												
保護者 評価												
保護者 確認印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印
児童 確認印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印

※児童生徒と保護者で話し合って毎月確認しましょう。守られていない場合は改善が必要です！  
※印刷紙、五島市PTA連合会、県教育委員会からの文書を参考にしてください。

## 令和3年度

# 学力向上プラン



# 児童・生徒の現状と実態

## 前期 (小1～小4)

- 小1 ○学ぶ意欲が高く、真剣に取り組める。  
●基礎学力の定着が不十分。  
●問題文の意味を理解することが苦手。
- 小2 ○学習意欲が高く、進んで発表することができる。  
●聞く力に課題がある。  
●文章を読み取り、正しく答えるのが苦手。
- 小3 ○読書に励み、盛んに発表し意欲的である。  
●思考力・判断力・表現力に個人差がある。  
●書く力を高める必要がある。
- 小4 ○進んで発表し友達同士で意見を繋げられる。  
●聞く力に課題がある。  
●思考力・判断力について個人差が大きい。

## 中期 (小5～中1)

- 小5 ○学習に意欲的で、考えを発表できる。  
●数量関係・数学的思考の問題に課題がある。  
●文章の読み取り、書く力に課題がある。
- 小6 ○問題に対して、粘り強く解くことができる。  
●文章と図表を結び付け、情報を読み取ることに課題がある。  
●立式をし、計算のきまりを使うことが苦手。

- 中1 ○与えられた課題の取組が良好で、意欲が高い。  
○書くこと(作文)の力がついてきている。  
●学びを生かして応用することが苦手。  
●冷静であるが、積極的な発言が乏しい。

## 後期 (中2～高3)

- 中2 ○与えられた課題に取り組む。  
○創造性に富み、アイデアを持っている。  
●文章を読み取ったり、話を聞き取ったりすることに課題がある。  
●基礎・基本の理解や定着が図れていない。
- 中3 ○ペア学習やグループ学習で積極的に意見を述べることができる。  
●限られた時間での文章の読解力に課題がある。  
●理解や定着が図られていないことをそのままにしている。

- 高1 ○授業中の学習活動や与えられた課題に真剣に取り組む姿勢が見られる。  
●基礎基本および主体的学習習慣が身につけていない。  
●学習意欲と学力に二極化が見られる。

- 高2 ○学習態度や授業の雰囲気良く積極的な姿勢で、課題にも取り組んでいる。  
●指示されたことに対する取組は良好であるが、プラスαの学習に自ら考え実行することができない。  
●積極的に自分の考えを発表しようとはするものの、論理的表現力に乏しい。

- 高3 ○学習態度が良く、与えられた課題に対しても積極的に取り組んでいる。  
●基礎・基本を定着させるための努力が不足している。  
●読解力が弱く、自らの考えや意見を論理的に表現することが苦手である。

**重点課題**

- ◆ (小)「読み取る力の育成」「表現力の向上」
- ◆ (中)「要点を正確に読み取る力の育成」「基礎・基本の定着」
- ◆ (高)「学びに向かう主体的態度の育成」「基礎・基本に裏打ちされた論理的思考力・表現力の育成」

# 学力向上に向けて

### 小学校では…

- 「読み取る力の育成」のために**
  - ・児童と共に「めあて」「まとめ」をつくり、根拠をもとに考え、話し合う授業づくりを進めます。
  - ・自主学習では、「めあて」や「まとめ」を設定させ、図や表を用いて整理させることや、学年に応じた工夫を取り入れて取り組むようにします。
  - ・読書の量や質を充実し、全校で目標読書冊数5000冊をクリアできるようにします。
- 「表現する力の向上」のために**
  - ・うなずきや言葉での反応など、学年に応じた聞く力を高めることで、話し合う場の充実を図ります。
  - ・話し合いや集会で話す活動や振り返りの場を週に1度は設定し、相手意識を持ち、堂々と自分の考えや思いを話せる児童を育てます。

### 中学校では…

- 「要点を正確に読み取る力の育成」のために**
  - ・リスタイム(学び直しの時間)の課題を見直し、資料や問題文を読み取る速度や、語彙力を強化する機会を設定し、個に応じた指導を行います。
  - ・授業づくりに、イメージ同定や具体例同定の視点を加え読解力の育成に努めます。
- 「基礎・基本の定着」のために**
  - ・全学年で自主学習ノートに取り組み、主体的な学習を継続させ、基礎・基本の定着につなげます。
  - ・各種学力検査や定期テストにおいて、生徒個人の習熟状況を把握し、つまずきに応じて、リスタイム(学び直しの時間)に職員全員で取り組みます。
  - ・「めあて」と「まとめ」が生徒に届くよう授業改善に取り組むとともに、「あどじゃん」を活用し、対話的な振り返り活動を行います。

### 高校では…

- 「学びに向かう主体的態度の育成」のために**
  - ・将来の目的を明確に意識し、能力・適性の開発・伸長を図ります。
  - ・「自ら計画して継続的に学ぶこと」を目標に、学習の習慣化を図ります。
  - ・生徒が達成感を感じられるように、個に応じた課題を設定し、学習意欲の向上を図ります。
- 「基礎・基本に裏打ちされた論理的思考力・表現力の育成」のために**
  - ・英文の書籍や新聞を「読む」ことを通して、ものの見方や考え方を広げる活動を増やします。
  - ・文章から適切な情報を正確に読み取り、適切に整理する活動に力を入れます。
  - ・自らの考えをまとめ、論理的に表現する力を身につける機会の充実を図ります。

# 学 力 向 上

### 小中高共通で

- 特色ある教育活動**
  - ◆小中高12年間の系統性を重視したキャリア教育を推進します。
  - ◆イングリッシュタイムやNAPERに取り組み実践的な英語力の向上に努めます。
- 授業改善**
  - ◆全ての教員による公開授業により、研修を深め、授業力の向上に努めます。
  - ◆「めあて」の明示、「まとめ」、振り返りを充実させることで学習内容の定着を図ります。
  - ◆学力検査等の結果から出た課題に対し、検証の機会を設け、学力向上に取り組みます。
  - ◆複式学級、ティームティーチング、ICTの活用など、指導法の工夫を行います。
- 学力向上プランの改善・検証**
  - ◆「改善検証サイクル」を作成し、2月に検証の日を設定することで、取組の検証を行います。(小中)
  - ◆小中高一貫教育合同会議における学力向上部会において、課題の絞り込みとプランの見直しを行います。